

公売物件のお知らせ

市では、市税の滞納により差し押さえた財産を入札によって公売しています。下記の公売財産の購入を希望される方は、市役所に掲示してある「公売公告兼見積価格公告」などを閲覧し、物件の明細などを確認してください。なお、入札する前に下記の日程で行われる下見会にご参加いただき、詳細を確認しておくことをお勧めします。

公売の対象となる物件

※個人が特定できる点については、写真に修正を施しています。

①コマツ ホイールローダ



最低入札価格 50,000 円
年式 昭和 62 年式
最大積載量 550キロ
走行時間 743 時間
備考 現状自走不可・要整備

②ホンダ アクティ



最低入札価格 30,000 円
車種 軽トラック
年式 平成 5 年式
走行距離 62,006キロ
備考 4WD・5MT・車検なし・現状自走不可・要整備

③ダイハツ ミラ



最低入札価格 20,000 円
車種 軽乗用 (5 ドア)
年式 平成 17 年式
走行距離 104,714キロ
備考 4WD・5MT・車検なし・現状自走不可・要整備

④スバル サンバー



最低入札価格 10,000 円
車種 軽バン (5 ドア)
年式 平成 8 年式
走行距離 93,949キロ
備考 5MT・車検なし・現状自走不可・要整備

参加申し込みおよび公売日程

公売方法 期日入札

申込期限 11 月 19 日(水)

入札日時 11 月 27 日(木) 午後 1 時 30 分

公売場所 市民会館 42 号会議室

売却決定日時 12 月 4 日(木) 午前 10 時

下見会

○期日 11 月 14 日(金)

○受付時間および場所

① 午前 9 時 税務課

②～④ 午前 9 時～11 時 30 分 豊田支所

公売に参加を希望される方は、事前に参加申込書の提出が必要です。

参加申込書の様式は、税務課窓口もしくは市公式ホームページからダウンロードできます。

ご不明な点は、税務課までお問い合わせください。

問い合わせ・申し込み先 税務課収納係 ☎ (22) 2111 (内線 227)

広報クイズ

■今月のプレゼント

「南水(和梨)とラ・フランスセツト5品」：2人

問題

赤岩区の例大祭は毎年いつ行われるでしょう。

【〇月〇日】

クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、世帯主名を記入の上、今月の広報で参考になった記事、今後知りたい情報などをはがきに書いて、次の宛先までご応募ください。

締め切り 11月21日(金)必着

※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

先月号の答え 本市で誕生した秋映は、何を交配して生まれたものでしょう。 答え・・・「つがる×千秋」

383-8614

(住所記載不要)

中野市庶務課
秘書広報係 行

住所・氏名・年齢・
電話番号・世帯主

市民リレー元気の輪

No.5

吉池照子さん
からのご紹介



○自己紹介

運送会社を定年退職してから、新井工業団地のプラスチック成型会社にお世話になっており、環境マネジメントシステムの運用などを担当しています。

運送会社に勤務していた当時は転勤が多く、県内各地の地域性の違いを肌で感じるとともに、人とのつながりの大切さを学びました。

2年ほど前に、料理研究家の先生との出会いから、中野の特産品であるキノコを使って何か出来ないかと考え、乾燥きのこを粉末にしてブレンドした商品を開発しました。

また、現在の会社はキノコの栽培ビンを作っており、地元キノコの消費拡大に協力したいという思いから、

開発したきのこ粉末を活用するための料理研究会を社内です立ち上げています。

高齢者の方々

にも気軽に使ってもらえる健康に良い食品として、また、キノコの季節物というイメージの脱却を目指し、料理教室や物産展でアピールしています。



▲物産展で商品説明をする木村さん

○元気の秘訣

合唱団「コールなかの」に所属しており、福祉施設などを回って歌って歌っています。合唱団の仲間との毎年の親睦旅行も楽しみの一つです。

趣味を通してたくさんの人と出会い、自分の持っていないものを教えてもらっています。

また、きのこ粉末を毎日摂取していることも元気の秘訣だと思います。

○おらほの自慢

地区の氏子総代として任期の3年間、お祭りに携わってきました。伝統的な祭りが地域にしっかりと伝承されているなど、歴史があるまちだということが自慢です。



木村 光男 さん (吉田)

池田市長の

わくわくレポート

vol. 16



信州なかのフェア in 横浜

一日と秋が深まるこの頃、高社山をはじめ周りの山々の紅葉も鮮やかになってきた。秋の味覚のシーズン真っ盛りである。

さて、去る10月24日に横浜の産業貿易センタービルで信州なかのフェアを開催した。当日は4時間という短時間のフェアではあったが、1500人以上の来場者があり、まずはほっと胸をなでおろした。

会場では、多くの来場者の感想をお聞きすることができた。嬉しかったのは「こうした中野市の催事を待っていました」、「来年も続けて開催してください」とか、「中野市は歴史あり、芸術あり、花ありで、加えてブドウやリンゴ、そしてキノコなど沢山の農産物があるんですね」

など、心ウキウキするような言葉をたくさん聞けたことである。

これまで、中野市は農産物を中心に広く世の中に地域を売り込んできたが、直

接、市としてまとまり、各種経営者の皆さまと一緒に、首都圏に向いてシテイセールスをするといったことはなかったと聞いている。

翻って、中野市は近隣市町村に比べて、その豊富な農産物、様々な精密機器、電子部品などを作る製造業、草津街道と谷街道の交差する人流と物流の交差点を背景とした商業立地など、産業のバランスがとれた地域として発展してきており、歴史的にも地理的にも恵まれた環境の中で、地方都市としてのポテンシャル(潜在能力)は高いと思っている。

人口減少時代にあつて、これからの中野市は、これまで以上に外に向かって、この地の魅力、この地の素晴らしさを伝え、一方では私たち自身が、私たちの暮らす故郷に対して、自信を持つことが大切だと思う。

一人ひとり、まず身近にある私たちの思う中野市の良いところを再確認、再発見し、まずは親しい方々に対し中野市をお奨め売り込むことが大切だと思っている。全国津々浦々、交流人口を増やすための施策を地域が一つになって取組んでいる。中野市も負けてはいられない。今は奮い立つ思いで一杯である。